

PROGRAM NOTE

2003

近藤譲：サッフォーの3つの詩片

混声合唱とフルートのための

Three Sappho Fragments

for Mixed chorus and Flute

サッフォーの名は、古代ギリシアの女流抒情詩人としてよく知られている。しかし残念なことに、彼女の詩はほとんどが失われてしまい、残存しているものも、一篇を除けば、全てが小さな断片である。

明治時代に、上田敏は、有名な訳詩集『海潮音』を著した後に、当時西欧語に訳され始めていた多くのサッフォーの詩断片の中から三篇を取り上げて翻訳した。私がこの作品の歌詞として用いたのは、その翻訳である。翻訳詩は、言うまでもなく、日本語の詩の中で重要な一分野を占めている。そして、見事な翻訳者の手による作品は、元々日本語で書かれた詩とは異なった不思議な魅力を放っている。

曲は、冒頭の歌詞のない部分を含めて、四つの部分から成っているが、全ての部分は切れ目なしに続けて演奏される。フルートは、合唱に対する一種のオブリガートとして扱われており、又、合唱団員の一人が奏するトムトム(太鼓)が、時折、音楽の流れを区切る。

この作品は、2003年に、「創る会」の委嘱により作曲、同じ年に、同会合唱団の演奏会(指揮：田中信昭、フルート：西沢幸彦)で初演された。

近藤譲

初演：2003年8月(東京)

初演者：田中信昭(指揮) 西沢幸彦(フルート) 創る会(合唱)

委嘱：創る会

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-115

演奏時間：15分

PROGRAM NOTE

歌詞

近藤譲作曲《サッフォアの3つの詩片》

サッフォア（訳 上田敏）

「忘れたるにあらねども」

たかき樹の枝にかかり、
梢にかかり、
果實このみとるひとが忘れてゆきたる、
いな、
忘れたるにあらねども、
えがたくて、
のこしたる紅き林檎みの果のように。

「君のねがひ」

君のねがひ望みたまふもの、
もし道にかなひて尊きことならば、
または、くちに正しからぬ言葉をたくみたまはずとならば、
いかでか羞はぢは君の眼を蓋おほふべき、
あからさまにいひいでたまふべきに。

「夕づつの清光を歌ひて」

汝は晨朝あしたの蒔き散したるものをあつむ。
羊を集め、山羊やぎを集め、
母の懐うなみどに稚兒わらわを歸す。